

栃木県立文書館 令和8(2026)年度

常設展の御案内

2026.6 ~ 2027.6

文書館常設展では2つのコーナーを設け、それぞれのテーマに関する史料を紹介しております。

限られた点数ではありますが、多様な史料の語りかける世界をどうぞお楽しみください。



○ もんじょ君

テーマ1 昭和の栃木県 —文書と写真で見る人々の暮らし—

主な展示史料

皇紀二千六百年記念絵葉書
引揚者への寝具配給
「闇米を買わない明るい生活」
運動会で整列する子どもたち
洗濯機「愛妻号」チラシ ほか

令和8年(2026)は、昭和元年から数えて満100年を迎えるという節目の年です。「昭和」という元号は最も長く使われ、今日の私たちの生活を支える基盤、産業や文化の土台が築かれてきました。本コーナーでは、昭和の栃木県で暮らした人々の息遣いを感じていただけたら幸いです。

テーマ2 江戸時代 —文書の時代へ—

主な展示史料

某雅楽助条書
日置流印西派弓図
(期間限定展示)
徳川家康朱印状
酒井忠勝書状 ほか

江戸時代には、さまざまな記録を残す必要があったため、文書作成量が飛躍的に増加しました。現在、古文書として私たちが多くの文書を目にすることができるのは、これらが大切に保管されてきたからです。本コーナーでは、江戸時代前期頃までの希少な武家文書を中心に紹介します。

- 展示期間 令和8(2026)年6月15日(月曜日)から約1年間
※土、日、祝日、年末年始休館日を除く
※ただし、令和8(2025)年6月21日、7月26日、8月30日、9月27日、10月25日、11月29日、12月20日
令和9(2027)年1月31日、2月28日、3月21日は午前10時から午後5時まで開館します。(日曜開館日)
- 開館時間 午前9時から午後5時まで
- 会場 県庁南館2階 栃木県立文書館展示室(宇都宮市塙田1-1-20)
- その他 入館料無料

各テーマの代表的な展示史料

常設展示のテーマごとに、代表的な展示史料を紹介します。

1 昭和の栃木県 一文書と写真で見る人々の暮らし

一 戦前戦中の暮らしと戦後の復興



皇紀二千六百年記念絵葉書

昭和15年(1940)

当館寄贈 田代善吉氏収集文書 No.1134

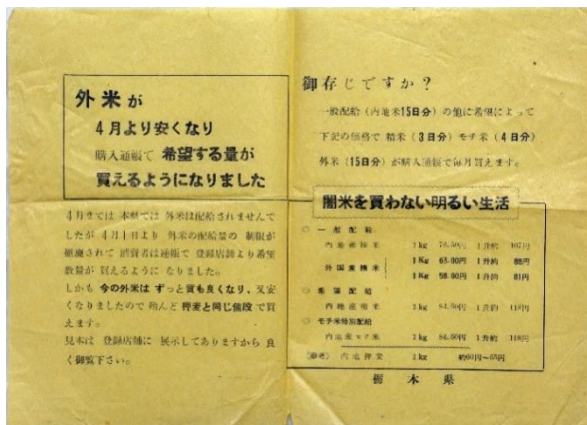
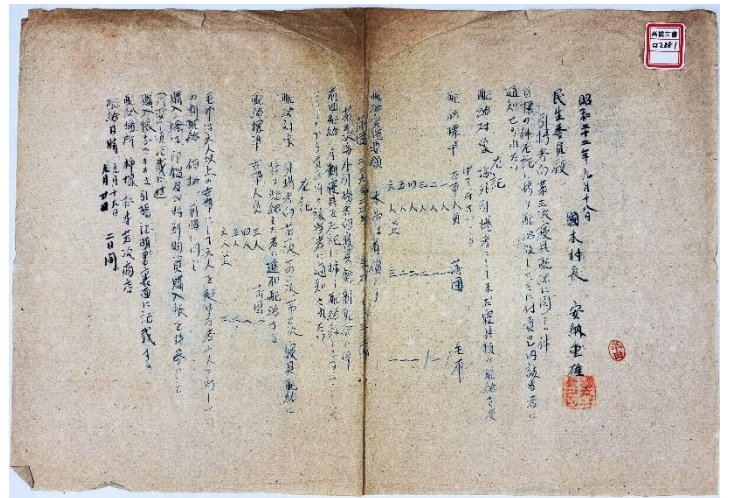
昭和15年は、神武天皇の即位から2600年に当たり、2月11日の紀元節には大々的に全国各地で様々な記念式典や記念行事が催されました。写真には西原尋常小学校での行進の様子が収められています。

引揚者への寝具配給

昭和22年(1947)9月18日

当館寄託 高橋悦郎家文書No.2881

敗戦により、海外へ派兵されていた軍人の復員と民間人の引き揚げが始まりました。集団的な引き揚げは昭和33年まで続きました。復員者や引き揚げ者のほとんどが着の身着のままであったことから各種の援護が必要でした。



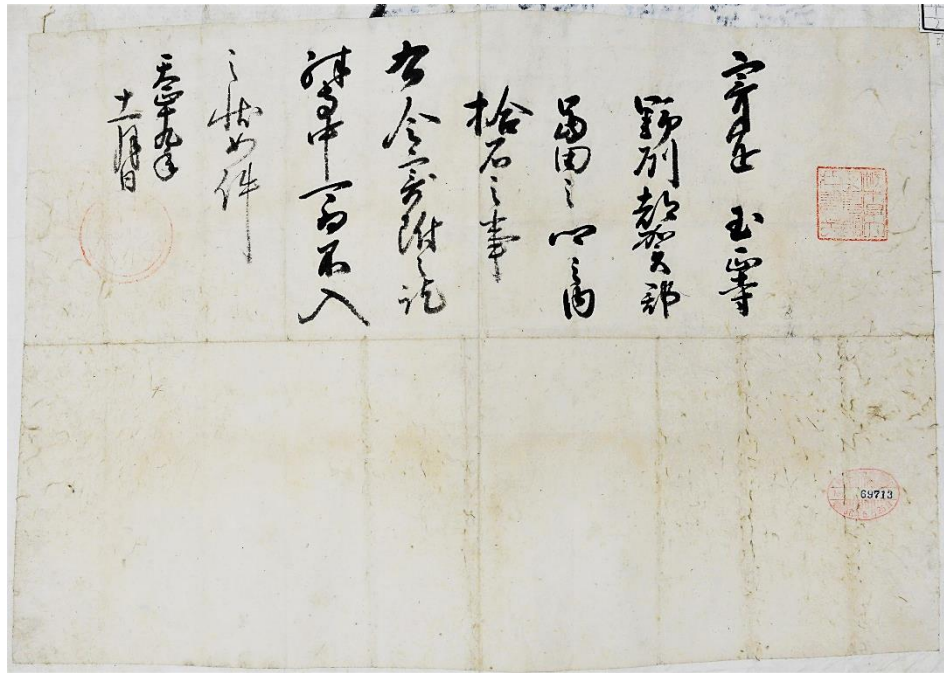
「闇米を買わない明るい生活」

[昭和31年(1956)4月]

当館寄託 旧高松國三郎家文書No.2-83

戦後は戦時中以上に米不足に見舞われました。そのため、政府の配給制度を通さない米の闇取引が横行しました。昭和23年以降、国内の食糧生産も回復していく中、昭和31年3月の閣議決定により、輸入米の購入上限を撤廃しました。

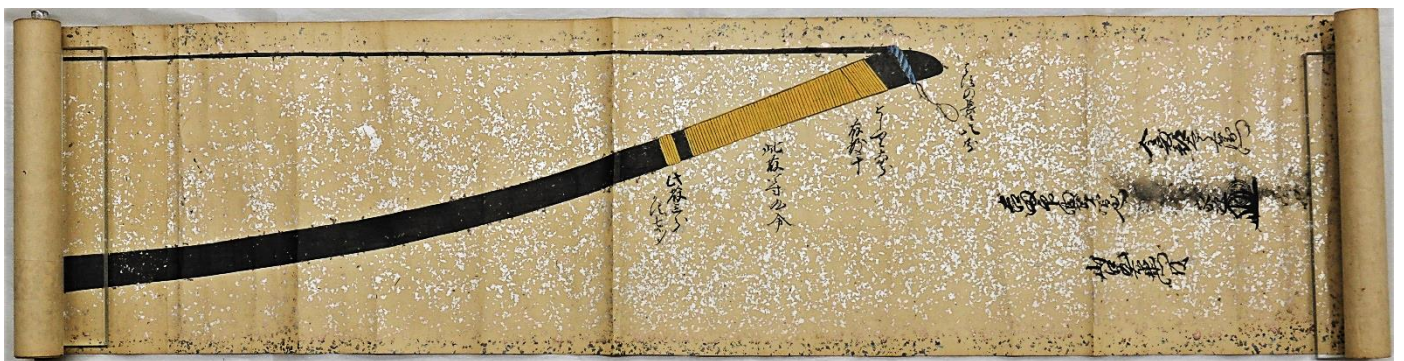
2 江戸時代 一文書の時代へ



徳川家康朱印状

天正19年(1591)11月
当館所蔵 徳川将軍家朱印状No.46

玉正寺(現栃木市)に対して、都賀郡富田郷(現栃木市)から10石の寄進(寄附)を受けること等を認めたものです。紙質は当時最高級の和紙である大高檀紙たかだんしが使用され、縦紙を横に二つ折りして折り目を下に向けて書く折紙の様式で記されています。



日置流印西派弓へき いんさい図

寛永期(1624年~1644年)頃
当館寄託 大出喜明家文書No.12

日置流印西派とみられる金留部家次から、山口久右衛門に対して示された弓の図です。日置流印西派とは吉田印西によって大成された弓術の流派で、印西の子孫は、旗本として代々徳川将軍家弓術指南役を勤めました。